

日本労働年鑑 特集版 太平洋戦争下の労働運動

The Labour Year Book of Japan special ed.

第六編 朝鮮民族独立運動

第二章 抗日武装闘争の開始

第一節 遊撃根拠地・解放地区の創設

日本帝国主義との長期の武装闘争を敵の統治地区で展開するためには遊撃根拠地の設置が必要であった。一九三二年から設置された遊撃根拠地は公開的解放地区形態をとり、遊撃隊と人民大衆との関係を強め、革命勢力の育成および遊撃戦の後方としての役割のほかには戦闘に有利な地理的条件をも考慮した上、朝鮮の北部国境と接する延吉県をはじめ汪清・輝春・和竜・安図県などの各県に広範な地域を解放して設置したのである。

遊撃根拠地—解放地区では、遊撃隊員の増大、武装の強化や政治軍事訓練を日常的に行なうなど質量的にも戦闘力の強化をはかり、このほか準軍事団体として自衛隊・少年先鋒隊も結成され、また農民会・婦女会や被服廠・武器製造所などの後方機関が設置された。また人民の自治によって運営される革命政権を樹立し、日本人と悪質な地主の土地や財産を無償没収して農民に無償分配する土地改革を実施するなど人民を搾取と抑圧から解放した。

解放地区の人民は生活を通じて敵と味方の区別が明確になり、新しい社会を実現するため闘争している遊撃隊を信じ、苦楽をともにしながら敵の攻撃にもすべての力を結集し解放地区を固守した。解放地区内で実施された民主的諸改革は敵の統治下にある人民たちにも知れわたり、多数の人民たちが解放区に移住して来た。このようにして抗日武装闘争を拡大、強化しうる物質的土台が築き上げられ、漸次強化されていった。

日本労働年鑑 特集版 太平洋戦争下の労働運動

発行 1965年10月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2000年2月22日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 特集版 太平洋戦争下の労働運動【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)